

# 令和7年度 学校評価報告書（総括書）

あま市立伊福小学校

## 1 総括

### (1) 教育目標（学校経営案より）

知・徳・体の調和のとれた人間形成を図る。

- ア 学び合う児童 【知】
- イ 認め合う児童 【徳】
- ウ 伸び合う児童 【体】

### (2) 本年度の重点努力目標

#### ア 確かな学力の向上

- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- タブレット端末の効果的な活用
- 振り返り活動の確保
- 基礎基本の定着

#### イ 豊かな心の育成

- 笑顔で元気のよいあいさつや返事の励行
- しっぴータイムの充実
- 人権教育・道徳教育の工夫
- 心を合わせた合唱の充実
- 異学年交流の工夫

#### ウ 多様な学びの実現

- 特別支援教育の視点を大切にした授業づくり
- 児童の安心・安全な居場所（学級・学校等）づくり

#### エ コミュニティ・スクールの充実

- 地域人材の積極的な活用
- 幼稚園・保育園・こども園・小学校・中学校との連携

#### オ 働き方改革とコンプライアンス遵守

- 風通しのよい温かい職場環境づくり
- 業務内容の改善や職務の優先順位の見直し
- 生きがいや働きがいを大切にしたいタイムマネジメント力の向上
- コンプライアンス面談や研修の推進

## 2 自己評価の実施体制

- (1) 調査時期 令和7年12月16日～令和7年12月23日
- (2) 調査項目 別紙アンケート参照
- (3) 調査対象 有効回答者数537／対象者数595
  - ・児童 312名／全327名
  - ・保護者 205名／全247名
  - ・教職員 20名／全21名

## 3 調査結果【資料として添付】

別紙アンケート結果参照

## 4 考察【児童、保護者、教職員の総括的考察】

### (1) 児童の評価

多くの項目で肯定的な回答が80%を超え、児童が学校生活に安心感と満足感をもっていることが明確に示されました。学校が大切にしてきた「人間関係づくり」と「安心できる学級環境」が、確かな成果として表れて

いと捉えられます。特に、「友達と仲よく過ごしている」「行事や学習活動に意欲的に参加している」「先生は一生懸命授業に取り組んでいる」といった項目では、「よくあてはまる」が多数を占め、児童が信頼関係の中で前向きに学校生活を送れていることが示唆されます。一方で、「授業が楽しい」という項目では、他項目よりもやや肯定的回答の割合に差が見られました。授業改善の成果は着実に現れているものの、さらなる学びの楽しさの創出が今後の課題と考えられます。児童が自ら学びに向かい、できる喜びを実感できる授業づくりに一層取り組む必要があります。

## (2) 教職員の評価

全体的に肯定的な回答が多く、児童に寄り添った指導や学校行事・安全面の取組が信頼につながっていることが確認できます。「児童が意欲的に学習している」「よい点を認めて指導している」などで特に高評価となり、教職員の関わりの質が児童の安心感や意欲向上に寄与していると考えられます。一方で、保護者との評価差や業務運営に改善の余地が見られました。今後も成果や意図を保護者へ分かりやすく伝えながら、より信頼に基づく教育活動を推進していきます。

## (3) 保護者の評価

全体的に肯定的な回答が多く、学校の教育活動に対する保護者の信頼が高まっていることが確認できます。「宿泊行事や校外での学習に喜んで参加している」「学級で仲のよい友達がいる」などの項目で評価が高く、体験活動の充実や良好な友人関係が児童の満足感につながっていると考えられます。一方で、「読書への親しみ」「姿勢体幹体操・保健指導の効果」については保護者評価がやや低く、日々の成果が十分に伝わっていない可能性が示されました。今後も児童の学ぶ姿や成長を分かりやすく発信することで、学校と家庭の協働意識をさらに高めていきます。

## 5 成果と課題

### 《成果》

- (1) 児童・保護者・教職員の多くから肯定的な評価が得られ、学校全体としての教育活動が信頼されていることが確認できました。特に、「校外学習」「歌を歌う活動」「学級での生活」については、「よくあてはまる」の割合が高く、学校生活への満足度の高さが示されています。
- (2) 「教職員は情熱をもって教育に取り組んでいる」「ICT活用が学習に役立っている」といった項目でも高い評価が見られ、授業改善や学習意欲の向上に向けた取組の成果が表れていると捉えられます。
- (3) 学校行事や日常の授業、「しっぴータイム」などの活動を通じて、児童のコミュニケーション能力の向上と安心できる人間関係づくりが進み、教職員も児童の成長を実感しています。

### 《課題》

- (1) 読書活動や姿勢体幹体操・保健指導について、児童・保護者の評価が他項目より低めであり、活動の価値や成果の見える化が課題です。
- (2) 交通マナーにおいて、児童の自己評価と教職員の危機意識に差が見られたため、指導の継続強化が必要です。
- (3) 「授業が楽しい」と感じていない児童が一定数存在することから、学びの楽しさを高める授業改善と教職員の力量向上が求められます。

## 6 改善策

- (1) 読書活動の定着に向け、朝読書の様子や図書委員会の取組、PTA 読み聞かせボランティア活動をホームページ等で積極的に発信し、家庭と連携して読書習慣の育成を図ります。
- (2) 姿勢体幹体操・歯科指導では、児童が楽しみながら取り組んでいる姿や健康への効果を発信し、保護者とともに健康的な生活習慣づくりを進めていきます。
- (3) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、児童が「授業が楽しい」と実感できるよう、魅力ある授業づくりと教職員の授業改善を一層進め、一人一人が輝く学校をめざします。